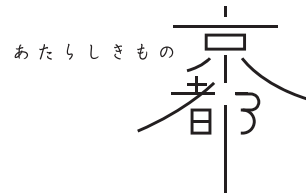


あたらしきもの 京
都

主 催：京都商工会議所・ファッション京都推進協議会
共 催：京都府
事務局：京都商工会議所 産業振興部
〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川上る
Tel：075-212-6450 / Fax：075-255-0428
Mail：shinkou@kyo.or.jp



「あたらしきもの京都」は、京都の事業者が日本全国に向けて新たに発信するものづくりプロジェクトで、今年で2年目を迎えました。長い歴史と進取の精神に富む京都の伝統工芸や地場産業が持つ優れた素材と技術を、現代のデザインによってさらに洗練させました。これらは、日々の生活に潤いと輝きをもたらす暮らしの道具ばかりです。ファッションアイテムやテーブルウェア、インテリア小物など、商品は多彩。しかもどれをとって見ても、そこには見慣れた京都のイメージを超える新しい表情と普遍の価値が宿っています。

“伝統の解放”に“破壊的創造”。

そんな挑戦に満ちた「あたらしきもの京都」は、暮らしに喜びと感動をもたらし、日本の生活文化の進化に貢献します。

<http://www.atarashiki-mono-kyoto.com>

Contents

丸二	4
宮崎木材工業	6
京竹	8
鳥居	10
洛景工房	12
宇野商店	14
京都紋美京	16
寺島保太良商店	18
伊と幸	20
丸進	22
井助商店	24
晋六窯	26
熊谷聡商店	28
土田人形	30
夢み屋	32
レイゾン	34

Adviser team

Sales adviser

田中智子
金谷弘幸

Designer

みやげかずしげ
森田明奈

Communication adviser

下川一哉
杉江あこ

Coordinator

西堀耕太郎

あたらしきもの京都カタログ
2017年2月1日発行
編集・文 下川一哉
杉江あこ
写真 福尾行洋
発行 京都商工会議所

唐紙文庫

丸二



箱/素 材:和紙、水性絵具
サイズ: H 7cm × W 約19cm × D 約26.5cm
色 柄: つぼつぼ、笠松、花七宝 /ほか

奈良時代に唐から伝わった唐紙。当時は上流貴族の間で手紙や詩歌を書くための「料紙」として使われたという。その後、平安時代に日本でも唐紙がつくられるようになると、貴族が住まう寝殿造りの襖障子に使われ、さらに江戸時代には室内装飾品として武士や町民の間にも親しまれていった。

その唐紙を自社製作するのが、和室内装材の販売会社である丸二だ。ことに京都でつくられる唐紙は「京唐紙」と呼ばれ、版木を使い、雲母（うんも）や胡粉（ごふん）などの顔料を使って伝統文様を摺ることを特徴とする。

唐紙を広く知ってもらおうきっかけとして、丸二はこれまでに唐紙を使った



守るものと
“付け加える”もの

文具をいくつも開発してきたが、「改めて見直す必要がある」と代表取締役の西村和紀は判断。そこで商品全体に統一感を持たせるリブランドに挑んだ。14の伝統文様と12色を選定し、ポストカード、レターセット、一筆箋、ぼち袋、祝儀袋、箱の6アイテムに展開。現代の「料紙」として提案する。



代表取締役
西村 和紀

株式会社丸二
〒600-8076
京都市下京区高辻通堺町東入
泉正寺町462番地
Tel: 075-361-1321
Fax: 075-361-8876
Mail: karakami@maruni-kyoto.co.jp
http://www.maruni-kyoto.co.jp

京からかみ

MOKK

宮崎木材工業



ステッカー/素材:天然木(突板)
サイズ: H 0.3~0.6mm × W 2~7cm × D 5~9cm
色柄: アルファベット、数字、犬、猫、葉
樹種: その都度異なる



ボード/素材:天然木(無垢)
サイズ: H 2cm × W 22cm × D 10cm ~
樹種: その都度異なる

1856年に初代が京指物師として創業して以来、京指物の技術を生かして家具や船舶内装、建築内装と事業を広げてきた宮崎木材工業。木材を使った造作には必ず端材が出る。その端材をただ処分するのは「もったいない」という気持ちから、同社は端材を利用したブランド「MOKK」を立ち上げた。「本

物の木材を気軽に使ってもらいたい」と代表取締役の宮崎真里子。

1つは突板を利用したステッカーである。突板とは材面を薄くスライスした板のことで、化粧用材として用いられる。この1mmにも満たない薄さを生かして、身近なものに貼れるステッカーを開発した。アルファベットや数



“変化”に対応するもの

字、犬や猫、葉の形にくり抜いたもので、端材ゆえに樹種は豊富に揃う。

もう1つは食品を盛るためのボードである。端材として出やすい細長い板を活用し、側面にテーパーをつけてデザインすることで、卓上に映える洗練されたボードに仕上げた。陶磁器の皿とは違う趣を楽しめる。



代表取締役
宮崎 真里子

宮崎木材工業株式会社
〒604-0804
京都市中京区夷川通堺町西入る
絹屋町 129 番地
Tel: 075-935-8106(京都工場・企画室)
Fax: 075-935-8103(京都工場・企画室)
Mail: kikaku@miyazaki-mokuzai.com
<http://www.miyazaki-mokuzai.com>



ムクとハレのつづり

京竹



素材:表地・裏地/絹、房/レーヨン、アルバム/越前和紙
サイズ: H 4cm × W 14cm × D 19cm
色柄:ムク(白無垢)、ハレ(色打掛)

神前式の式服として用いられる、最も格の高い花嫁衣装である白無垢。また披露宴で羽織ることの多い、赤や金などの華やかな色を用いた色打掛。この伝統的な花嫁衣装を企画製作しているのが、京竹の親会社である。

しかし近年はウェディングドレスが定着したことや「地味婚」が増えたこ

とから、和装の花嫁衣装への需要が減っている。これに危機を感じた同社の金森智子は「多くの人々の目に触れられる機会を作りたい」と、花嫁衣装を活用した商品開発に乗り出した。

こうして生まれたのが、はたちの祝いや結婚祝いに贈る記念アルバムである。これは写真を貼ったり、メッセー



“進化”させて守るもの

ジを書き込んだりできる紙製の蛇腹折りアルバムで、表紙は白と赤の2種類。白い表紙のアルバムは白無垢の生地で袱紗のように丹念に包んで留め、赤い表紙のアルバムは色打掛の生地で同様に包んで留める。アルバムの表紙には、花嫁衣装の吉祥文様として使われる鶴マークをプリントして祝意を表す。



企画営業
金森 智子

株式会社京竹
〒603-8344
京都市北区等持院南町 59-4
Tel: 075-468-3074
Fax: 075-468-3074
Mail: nkvpt321@ybb.ne.jp
<http://kyo-chiku.com>



裂の箱

鳥居



書類入れ / 素材: 絹、紙
サイズ: H 4.5cm × W 25.5cm × D 34cm
色 柄: 紺、ベルシャ紋など / ほか

全国の表具店や博物館、神社仏閣などに向けて、表具（掛け軸）を飾る美術織物「表装裂」を専門に扱う鳥居。表装裂を仕立てる際に最も重要な作業となるのが、裂と紙を糊で張り合わせる裏打ちだ。裏打ちをすることで巻物や掛物に仕立てることができる。

この裏打ちの技術を生かし、近年、同

社はワインバッグや封筒など日用雑貨の開発に取り組んできた。さらに「存在感のあるインテリアとして活用したい」とデザイナーの鳥居玲子は挑戦する。

そこでありそうでなかった、金襴緞子を張り合わせた箱を開発した。デスクまわりに置ける蓋身式のA4書類入れ、手紙入れ、ペンケースと、テーブ



飾るものから
“使う”ものへ

ルやドレッサーなどに置ける置き蓋式の大・中・小サイズの小物入れである。

デスク用品には無味簡素なものが多い。それに対して、感性豊かなライフスタイルを送る40～60代に向けて特別感のある箱を提案した。表具に使われる、伝統的な文様の金襴緞子が上質で落ち着いた空間をつくる。



デザイナー
鳥居 玲子

鳥居株式会社
〒604-0804
京都市中京区夷川通堺町東入る
絹屋町128番地
Tel: 075-222-1031
Fax: 075-222-2350
Mail: info@torii.kyoto.jp
http://torii.kyoto.jp



洛色 Clutch

洛景工房



素材: 絹
サイズ: H 26cm × W 36cm × D 3cm
柄: 黎明の憂ひ(濃紺)、花街の石畳(ベージュ)、賀茂茄子(紫)、宇治の川舟(青緑)など

洛景工房は、洛景（京の情景）をモチーフに、現代の暮らしに溶け込むモダンデザインを生活用品として企画、販売する会社である。代表取締役の苧阪友作は、かつて東京の総合ディスプレイ会社でミュージアムの開発プロデューサーを務めていた人物で、ものづくりの経験を生かし、3年前に地元の

京都で起業した。同社の特徴が、京の情景を映した「洛色」である。

全72色を独自に考案し、1色1色に「花街の石畳」「加茂の浅水」などの京都の姿や季節を感じる名前をつけた。これを京都の伝統工芸職人とコラボレートしてつくる、オリジナルプロダクトに反映させている。



普段の暮らしを
“ちょうど良く”

同社の新たなオリジナルプロダクトとして今回開発したのが、西陣織を使ったシステムクラッチバッグだ。ノートパソコンやA4ファイル、手帳やペンなどのビジネスギアを収められるポーチを複数用意し、内部の好きな場所に貼りつけられるようにした。5色展開のポーチは自由に組み合わせられる。



代表取締役
苧阪 友作

洛景工房株式会社
〒602-8023
京都市上京区烏丸通丸太町上る
春日町 426-2
Tel: 075-746-4358
Fax: 075-320-2860
Mail: info@rakukei-kyoto.jp
http://rakukei-kyoto.jp



雲取りポーチ

宇野商店



素材:テトロン
サイズ:H11.5cm×W21cm×D2cm
色柄:雲取り(カモフラージュ)
※写真の形はサンプルです。

宇野商店は、歌舞伎や文楽などの舞台衣裳を製作している会社だ。一方で「多くの人々に伝統芸能に興味を持ってもらいたい」という代表取締役の宇野滋記の思いから、数年前より一般市場に向けた商品開発を行っている。

今年、開発したのは伝統文様の1つ「雲取り」をアレンジした、カモフラ

ージュ柄のポーチだ。カモフラージュ柄の中に、歌舞伎の衣裳によく用いられる亀、蛸、海老の文様を小さく取り入れてアクセントとした。亀は歌舞伎の演目「三番叟」でよく用いられる文様で、海老は花魁の豪華なまな板帯に刺繍されることの多い文様である。

ポリエステル系繊維「テトロン」に



“京都らしくない”
ものを京都らしく

プリントし、バッグインバッグに活用できる立体的なポーチを製作した。

これに先立ち、去年は歌舞伎の演目「勸進帳」に登場する武蔵坊弁慶の衣裳に使われる「弁慶格子」を帆布にプリントして、デニムと組み合わせたバッグを開発した。現代の歌舞伎者らしさを大切にしたものづくりをしている。



代表取締役
宇野 滋記

株式会社宇野商店
〒603-8151
京都市北区小山下総町42番地
Tel:075-451-3142
Fax:075-431-6136
Mail:uno.shouten@gmail.com
<http://kanjincy.com>



わっふる絞

京都絞美京



素材: 絹 85%、ポリエステル 15%
サイズ: H 200cm × W 50cm
色柄: 藍、スカイブルー、ピンク、イエロー、グレー

最新デジタル技術と伝統技術の融合。京鹿の子絞 染色部門の伝統工芸士、松岡輝一が開発した独自技術「デジタル3D絞」は、まさにその言葉がぴったりである。松岡が経営する京都絞美京は、1959年より京鹿の子絞の製造販売を行っている。

近年、京鹿の子絞業界でも注目を集

めたのが3Dプリンターだ。板締め絞染の道具(型)をコンピューターの3Dソフトでデザインし、3Dプリンターで出力すれば、激減する道具づくり職人の代わりを担うことができる。

しかし松岡は「どうせ挑戦するのなら、もう一歩進んだことをやりたい」と、デジタルの強みを生かした複雑な形状の



自らが“風”になること

道具をつくることに挑んだ。試行錯誤の末、柔らかな立体感を持った、新しい風合いの京鹿の子絞を完成させた。

昨年開発したこの技術を用いて、今年は生地を薄くした春夏向けのスカーフを製作。ドーナツ形と円形の文様を斜めに配置し、ワッフルのような凹凸を持ったスカーフに仕上げた。



伝統工芸士
松岡 輝一

株式会社京都絞美京
〒604-8863
京都市中京区壬生中川町 2-3
Tel: 075-812-7777
Fax: 075-841-8322
Mail: k.bikyo@jeans.ocn.ne.jp
<http://kyoto-shibori.com>



絲 tabane

寺島保太良商店



ネックレス/素材:純金糸、真鍮
サイズ:H 33cm × W 15cm × D 1.5cm
留め具色:金、銀、黒漆、白漆、桜花漆(青)、弁柄漆(赤) /ほか

西陣織や力士の化粧回し、祭礼の刺繍幕などに使われる金銀糸。これを明治30年から製造しているのが寺島保太良商店だ。同社はジュエリーデザイナーと組み、この金糸を用いてネックレスとブレスレットを開発した。

元々、皇族や貴族の衣装に使われた金銀糸が量産され始めたのは明治時代。

とはいえ、市場が限られていることから「多くの人々に知ってもらいたい」と専務取締役の寺島大悟は一般市場に向けた商品開発に取り組んだ。

金銀糸は絹や綿などの芯糸に、細く裁断した金銀箔を螺旋状に纏って作る。特に最高級の純金糸には、職人の手作業により、漆を引いた和紙の上に純金



“気持ち”
を動かすもの

箔を1枚1枚箔押しして、細く裁断したものを使う。仕上がった金銀糸は枠に巻き取り束にして納品する。

開発したジュエリーは、最高級の純金糸を贅沢に使い、納品時の束の表情を生かしてデザインしたものだ。年を重ねた人ほど似合う、高級ジュエリーの誕生である。



専務取締役
寺島 大悟

株式会社寺島保太良商店
〒603-8246
京都市北区紫野西泉堂町 65-2
Tel:075-495-7111
Fax:075-495-7117
Mail:info@terayasu.com
http://www.terayasu.com



透扇子

伊と幸



濃唐木 / 素材: 扇面 / 絹、扇骨 / 竹
サイズ: H 約21cm × W 約39cm × D 約1.8cm
色 柄: 麻の葉 (金糸)、糸菊尽くし (金糸)、宝相華紋 (金糸)、明月院唐草 (白糸)、桜重ね (黒糸)
※写真の柄はサンプルです。

「呉服の白生地と言えば伊と幸」として、和装業界で広く知られる存在の伊と幸。国内に流通する絹製品の1%にも満たない純国産の絹「松岡姫」を用いた白生地をはじめ、伝統や品質の良さを貫いた白生地を製造している。

着物を着る人が減っているいま、代表取締役の北川幸は「着物の魅力や文

化性を伝えたい」という思いから、様々な用途に目を向け始めた。白生地を建材の合わせガラスに利用したり、袱紗や名刺入れなどの小物に展開したりしている。中でも、今年ブラッシュアップした逸品が「透扇子」である。

意識したのは、本物志向と高い美意識を持つ30代前後の女性が友人に贈り



日常生活に
“潤い”を与えるもの

たいと思える商品だ。薄物コートに用いられるオーガンジーに伝統文様の刺繍を施し、透明感が涼を演出する扇子に仕上げた。和装でも洋装でも持ちやすい、手元を美しく見せる扇子である。また、夏着物の定番である波箴（なみおさ）文様の白生地を伝統色に染めた扇子もある。



代表取締役
北川 幸

株式会社伊と幸
〒604-8176
京都市中京区御池通室町東入る
竜池町 448-2
Tel: 075-254-5884
Fax: 075-256-2818
Mail: support@kimono-itoko.co.jp
<http://www.kimono-itoko.co.jp>



line-R マルチバンド

丸進



写真左上 Bundle (S)/ 素材: ベルト/ナイロン、ポリエステル、ポリウレタン、留め具/ポリアセタール
サイズ: L 約 42.5cm (調節可能) × W (付け根部分) 1.5cm
色 柄: ホワイト、ブラック

/ほか

「束ねる」「挟む」「繋ぐ」。丸進は、3つの機能に特化したマルチバンドを昨年開発した。ベルト式、クリップ式、リング式の金具を伸縮テープの両端に取り付けることで、様々な使い方ができる使い勝手の良いマルチバンドとして、これらは人気商品となった。

今年は「吊るす」機能に特化した、

片端のみにリング式の金具を取りつけたシンプルなマルチバンドを開発。また「挟む」の金具をプラスチックの留め具にして軽量化を図った、スポーツ向けのマルチバンドも開発し、ブランドとしてさらなる発展を遂げた。

同社は、繊維副資材と呼ばれる紐やリボン、レースなどの企画卸販売を行



紐への飽くなき
“探究心”

っている会社だ。主に国内の服飾商社に向けて商品を提案している。「繊維副資材はあくまでも脇役であるため、主役になる商品開発が長年の課題だった」と代表取締役社長の野澤孝康は言う。そこで反射素材のシルバー糸が織り込まれた伸縮性の高いテープを用いて、このマルチバンドを完成させた。



代表取締役社長
野澤 孝康

株式会社丸進
〒602-8205
京都市上京区中立売通松屋町東入る
Tel: 075-432-2131
Fax: 075-432-2138
Mail: info@marushin-kyoto.co.jp
http://www.marushin-kyoto.co.jp

株式会社
丸進

さかさつき

井助商店



素材:木(トチ)
サイズ: H 3.5cm × Φ 7.5cm
色 柄:よい、じゅうご、かさ、ありあけ、みそか、せん

月見酒ほど風流な酒の飲み方はない。かつて日本人は夜空を見上げるよりもむしろ杯に映る月を眺めて楽しんだ。杯の語源は諸説あるが、この杯に映る「逆さ月」から来たとも言われる。

文政年間に漆の精製販売店として創業し、現在は漆器の商品開発も行っている井助商店は、この「逆さ月」をコ

ンセプトに6つの柄の杯を開発した。例えば「さかさつき・よい」は、明るい夏の夜空に浮かぶ宵月をモチーフにした柄だ。周りを朱色に塗って明るさを表し、蒔絵で月を表した。

ほかに十五夜、月暈、有明月、三十日月、織月をモチーフにした柄があり、日本人が愛でる月を物語に組み込ん



新しい用途を
“掘り起こす”

だ、風流な杯が誕生した。

これは、日本に観光で訪れる中国人向けには茶器として販売する目的もある。そのため中国人が好む茶器のサイズを参考に、やや大ぶりの筒形とした。「国内市場では杯として販売する。男性向けのギフトとしても提案したい」と代表取締役社長の沖野俊之は意気込む。



代表取締役社長
沖野 俊之

株式会社井助商店
〒600-8066
京都市下京区柳馬場通五条上る
柏屋町 344 番地
Tel: 075-361-5281
Fax: 075-361-5285
Mail: shikki@isuke.co.jp
<http://www.isuke.co.jp>

 isuke

ひさご重ね碗

晋六窯



素材:陶器
サイズ: H9.6cm × Φ8cm ~
色 柄:白藍、薄桜、葉の花、茜、千歳緑

1932年に京都・山科地区に築窯した晋六窯。大きな茶葉の番茶を淹れるための注ぎ口が広い「ペリカン急須®」など、その時代の需要に即したユニークな商品を数々生み出してきた。

30年前に開発された「志野ひさご型弁当」もそのうちの1つ。「ものを極力持たずに生活する人をミニマリストと

呼ぶ風潮がある。そんな人にも提案したい」と代表取締役の京谷美香は話す。

これは元々、飲食店からの依頼で開発された陶器で、上蓋、中蓋、碗が縦に重なった形をしており、上蓋を取ってひっくり返すと碗になり、中蓋を取ると豆皿になるという仕組み。碗に炊き合わせを盛り、中蓋に香の物を載せ、



“温故知新”
のたたずまい

卓上で上蓋にご飯をよそったと言う。

これを現代に合わせてリ・デザインし、5サイズ展開とした。大きさを変えて家族で使用してもいいし、食事前、晩酌用など用途を変えてもいい。収納の際は縦に重ねられる利便性があるだけでなく、このまま飾っておきたくなるかわいらしさも備えている。



代表取締役
京谷 美香

有限会社晋六
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町 322 番地
Tel : 075-721-3770
Fax : 075-721-6237
Mail : kyoto@shinroku.com
<http://www.kyoyaki.net>



PAWS BOWL

熊谷聡商店



素 材:磁器
サイズ:H5cm × Φ 13cm ~
色 柄:白、銀麻、緑など

近年の猫ブームを背景に、ペット市場の拡大が続いている。しかしペットグッズと言えば、ファンシーなテイストや安価なものばかりでインテリアに馴染まないものが多い。こうした現状に鑑みて、熊谷聡商店の代表取締役社長、熊谷隆慶は「新しい市場に切り込むチャンス」ととらえた。

1935年に創業した熊谷聡商店は京焼・清水焼を企画開発する産地卸で、茶器や食器、インテリア用品などの自社商品を積極的に開発している。

今回開発したのは、インテリアとしても高いデザイン性を持った犬猫用の食器だ。同社が得意とする、表面にまばらな光沢を持つ「花結晶」という結



“暮らしの風景”
をつくること

晶釉を用いた磁器で製作した。さらに同じ「花結晶」を用いた人間用の食器シリーズも開発することで、同じ質感、柄の食器を人とペットが揃いで使う一体感を演出し、「家族の食器」として提案する。磁器なので食洗機にも対応。サイズはMとSの2つで、Mは中型犬用、Sは小型犬や猫用とする。



代表取締役社長
熊谷 隆慶

株式会社熊谷聡商店
〒607-8322
京都市山科区川田
清水焼団地町9-5
Tel:075-501-8083
Fax:075-501-5876
Mail:info@kyoto-kumagai.co.jp
http://www.kyoto-kumagai.co.jp



ねこのもてなし

土田人形

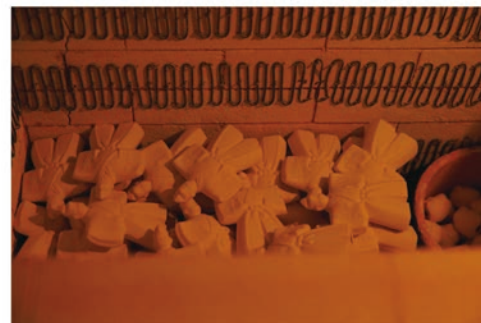


素 材：陶器
サイズ：H 8.8cm × W 6.4cm × D 6cm
色 柄：水玉、クローバー、ストライプ、無地など

いま改めてブームの兆しを見せている招き猫。この現象をとらえ「インテリアとして飾りたくなる現代風の招き猫をつくりたい」と挑んだのが、土田人形の代表取締役社長、土田博之だ。

土田人形は、京都の伝統工芸である「京陶人形」を製作している窯元だ。しかし今回は京陶人形らしさをあえて脱

し、のっぺりとした顔のない招き猫を製作した。そこに何十種類もの色や柄を全身に描くという手法を採用。水玉、ストライプ、トンボ柄、クローバー柄など、眺めているだけで楽しくなる招き猫である。底の内部にはアロマオイルを垂らすための皿を設置し、香りを楽しむ道具としても提案する。



従来の技術を使い
“従来にはない”
ものをつくる

そもそも京陶人形とは素焼の人形に顔料で彩色して仕上げたもので、二〜三頭身にデフォルメした形状を特徴とする。節句や干支の置物、土鈴、根付などが定番商品だ。現在、土田人形は企画から原型製作、型取り、素地製作、焼成、彩色、面相、箱詰まで、自社ですべて一貫生産を行っている。



代表取締役社長
土田 博之

株式会社土田人形
〒615-0915
京都市右京区梅津南町 1-10
Tel: 075-871-6834
Fax: 075-871-6845
Mail: tutida@maia.eonet.ne.jp
<http://www.tutida-ningyo.com>

土田人形

夏のキャンバス

夢み屋



パネル大 / 素材: 綿麻、麻、木
サイズ: H 120cm × W 12cm × D 1cm
色 柄: 紫陽花、七夕、金魚、水風船 / ほか

「和雑貨」という言葉さえなかった1975年当時、アンティークの着物生地で作ったリボンがヒット商品となり、創業に至った夢み屋。現在は主にちりめん生地を使い、温もりのある、かわいらしいインテリア装飾品の企画、製作、販売を行っている。

市場をさらに広げるため、同社はこ

れらの定番商品とはまったく違ったテイストの商品開発に挑んだ。定番商品は正月飾りが中心だが、新たに開発した商品は6月～8月に設える夏飾り。カラフルなちりめん生地ではなく、真っ白な麻生地を使い、紫陽花、七夕、金魚、水風船をテーマに制作した。

定番商品はくり抜いた厚紙にスポン



“いにしへの教え”
を現代に

ジを張り、ちりめん生地で包むのが基本。「麻生地で包むのは初めての試み。シワになりにくい、柔らかい生地を探した。白1色で作るのも初めての試みだったが、良い雰囲気仕上がった」と統括マネージャーの湯川和俊は話す。これを真っ白なキャンバス地にあしらひ、爽やかなパネルとして提案する。



統括マネージャー
湯川 和俊

株式会社夢み屋
〒612-8009
京都市伏見区桃山町見附町20番地
Tel: 075-622-6900
Fax: 075-622-6904
Mail: info@yumemiya.co.jp
http://www.yumemiya.co.jp



emoLight

レイゾン



灯具部 / 素材: プラスチック
サイズ: H 2.7cm × Φ 3.5cm
色 柄: 白

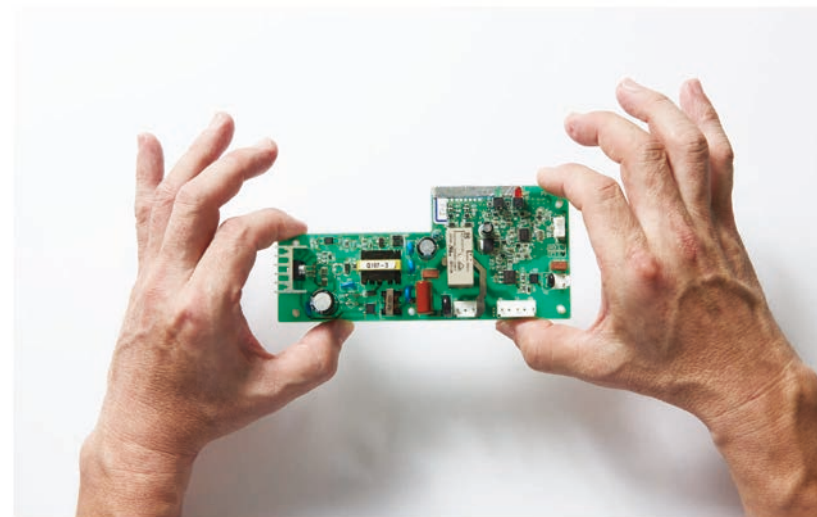
制御部 / 素材: プラスチック
サイズ: H 4cm × Φ 11.5cm
色 柄: 白

大手家電メーカーのOEMを行う親会社から独立し、新規事業会社として昨年設立されたレイゾン。親会社で培った技術と京都の地の利を生かし、テクノロジーと伝統工芸を融合させた実験的なものづくりに取り組んでいる。

例えば親会社が海外デザイナーと組んで開発した、368個のLEDを格子の

中に埋め込んで表面に和紙を張った照明「マトリックス」は、絵画のような光として高く評価され、米国のニューヨーク近代美術館でも発売された。

ただし高価な商品であったため、「もっと誰もが気軽に買えるものをつくりたい」と代表取締役の林伸昭は新たに意気込む。そこで開発したのが、照明器



テクノロジーで
“情感”に訴えるもの

具「emoLight」である。これは1つの制御で5灯を同時調光できる、言わば照明の制御装置だ。棚の隙間や観葉植物の影などに5灯を埋め込んで、間接照明として使う。操作はスマホのアプリで行える。室内全体を照らすほどの光量はないが、点滅や調光によって情感に訴える照明となっている。



代表取締役
林 伸昭

レイゾン株式会社
〒617-0002
京都府向日市寺戸町初田 19-3
K&C プラザ 4 階
Tel: 075-662-2166
Fax: 075-662-2177
Mail: hayashi@rayson.kyoto
<http://www.rayson.kyoto>

Rayson